

平成 29 年「北方領土の日」記念大会

記念講演「北方四島における日ロ共同開発のゆくえ」

講師 山田 吉彦 氏（東海大学教授）

日時 2017 年 2 月 4 日（土）13:30～16:00

場所 ボルファートとやま

今日は、全国で最も熱心に北方四島返還運動を進めていらっしゃる富山県に呼んでいただきましたことを非常に榮譽に思っています。北方領土返還運動に関わるようになって、数多くの場所に行きました。富山の多くの方々は、熱意を持って活動されています。

今日は北方領土の話全般にします。12 月のプーチン・安倍会談で落胆した方が多いと思いますが、決してそのようなことはありません。私は、かなり大きな前進であると考えています。

私はこの 10 年間で 6 回、北方領土に行ってきました。私は日ロ関係の専門家ではなく、北方領土問題だけを研究しているわけではありません。日本の領土領海の問題、海洋政策を中心に研究しています。

北方領土問題を解決するためには、国境線を変えれば済む話ではなく、当然制度を変えなければなりません。しかし、交渉段階で法律はどちらを使うのか、具体的な例をしめしますと、「道路は右側通行なのか左側通行なのか」なども含めて、考えて行かなければなりません。簡単に返す、返さないの話ではなく、当然、一気に解決するわけではありません。

先ほど、中学生が作文朗読で言ってくれました。現在、ロシア人が住んでいます。返還運動を進めている皆さんや残念ながら故郷に戻れなかった先輩たちの思いを実現するためには何が必要なのかを考えていくと、まずステップを踏んでいくことが必要だと思います。まず、ロシア化してしまった社会を日本化する必要があります。端的に言えば、日ロの共同経済行為が始まり、これが少しでも進むと、あっという間に北方四島は日本化します。

### ロシアが抱える問題

私は、モスクワにも何度も行って、向こうの研究者とも話しました。ロシアにとって考えなければならない国際問題は山のようにあります。ウクライナの問題、クリミア半島の問題、シリアの問題、チェチェンを中心としたイスラム教徒の問題、難民の流入、経済の立て直しなどさまざまです。旧ソ連邦の国々がロシアからどんどん離れて EU 化していく中で、極東に目を向けるのは、極東の経済が今後、ロシアの生命線になってくるからです。

といますのも、ロシアは石油によって国家財政を維持しています。この数年、石油価格の乱高下があり、国際社会は意図的に石油の価格を操作しています。ロシアは油田開発の後発国であり、なおかつ冬季は寒いので環境が厳しく、石油の生産コストが高く、ロシアの油田は 1 バレル（約 160 リットル）当たり 50 ドルなければ採算が取れません。昨年、一昨年は 1 バレル 30～40 ドルを推移していました。つまり、石油を掘ってもお金にならないのです。

国家財政を潤沢に維持するには、実は 1 バレル 70 ドル要ります。それに比べて、サウジアラビアは 1 バレル 18 ドルあれば採算が取れます。欧米の石油企業を中心とした流れの中で、一つはシェールオイルに対してプレッシャーを掛けるため、もう一つはイスラム教

過激組織 IS の資金源である石油を引き締めるために、国際社会は石油の価格を低く抑えてきました。ロシアにとっては耐え切れないことです。これには、クリミア半島に強引に手中にしたロシアに対する制裁という意味もあります。

そのような状況の中で、ロシアは天然ガスに活路を求めています。天然ガスを採掘し、安定的に売らなければいけません。今のロシア情勢は、ちょうど 1855 年、日本との間で下田条約、日ロ修好条約を結び、北方四島が日本のものであると条約によって決まったときと非常に似ています。

当時、ロシアはどのような政策を取っていたかということ、18 世紀後半から 19 世紀にかけて、ロシアは南下政策を進めていました。不凍港を探してさまよっていました。なぜ不凍港を手に入れたいか、なぜ南下政策をしていたかということ、まずイギリス・フランスを中心とした列強に新興国アメリカが加わり、大きな船を造って国際社会に乗り出し、経済を活性化させていたわけです。近代革命を世界に広め、さらにマーケットとしてアジアなどに植民地をどんどん広げていったのです。その中で、ロシア帝国だけが置き去りにされてしまいました。なぜなら、船で世界に乗り出したくても、通年使える港が限られていたからです。

そこでロシアは、世界へ船を使って乗り出す道を探していました。それには大体三つのルートがあります。一つ目はバルト海から大西洋に出るルート、二つ目は黒海からボスボラス海峡・トルコ海峡を通過して地中海に出るルート、三つ目は極東のウラジオストクから日本海を経由し太平洋に出るルートです。

しかし、そううまくはいきません。まずバルト海を出ると、当時世界最強の大英帝国海軍が待っています。実際に、日露戦争のときもバルチック艦隊は、出港して早々、イギリスに散々嫌がらせをされました。

次に目指したのは、黒海から地中海に抜けるルートでした。しかし、トルコは簡単に通してくれません。さらにフランスが後押しをしていました。そして、クリミア戦争になります。ロシアは戦略的に勝っていたにもかかわらず、最終的に押し込められてしまい、負けてしまいました。そして、地中海にも自由に出ていくことができません。頼みの綱は、日本海ルートだったのです。

そこで、下田条約のとき、ロシア皇帝はプチャーチン全権特命大使に対し、経済を重視して日本とは速やかに条約を結ぶようにという指示を出しました。日本の主張どおり、択捉・国後・歯舞・色丹が日本の領土となりました。さらにその段階で、樺太は日ロの雑居地（両国民が暮らす場所）という線引きになりました。

それが今とどのように似ているのかということ、先ほども言ったように、ロシアは天然ガスを世界に売らなければなりません。ガスの搬出ルートもやはり三つです。液化天然ガスにして、バルト海沿岸の港から搬出するルートです。バルト三国を経由するルートですが、バルト三国や旧東欧諸国は、どんどん EU 化しています。

旧ソ連邦だったバルト三国は、全て EU に加盟してしまいました。バルト海には、ロシアのカリーニングラードという港がありますが、ここは、ロシアの飛び地になってしまいました。ロシアの港であるカリーニングラードに行くには、EU に加盟したバルト三国を通らなければなりません。そこには、かつて敵軍だった NATO 軍がいます。いざとなれば、兵站が途切れてしまいます。

そこで、次に向かったのが黒海です。クリミア半島を強引に手に入れてみたのですが、世界は経済制裁を下しました。グローバル化した経済社会の中で、国際的な経済制裁を受けることがどれほどダメージを受けるか、痛いほど思い知ったのです。

そして、プーチン大統領が望む最後の手法が極東開発です。そのためには、日本との融和が必要です。日本は、頭を下げて「北方領土を返してください」と言う必要はありません。実は、ロシアは日本と仲良くせざるを得ないのです。ロシアは日本の経済力を無視できません。

経済だけではありません。ロシアは、トルコと頻繁に確執を起こしています。先般もトルコでロシアの大使が殺され、その前にロシアの飛行機が落とされました。国際社会で、トルコともロシアとも仲の良い国はどこかという、日本です。

シリア問題も同様です。日本は現在、アメリカと同調し、アサド政権を批判しています。しかし、日本はもともとアサド政権とのルートを持っています。アサド政権と近いのはロシアです。このシリア問題でも、実は日本がカードを持っているのです。国際社会の中で日本の立ち位置は非常に重要です。力があるのです。先ほど中学生も言ってくれましたが、しっかりと主張することを忘れてはいけないと思います。理論武装して、しっかりと主張していくことです。そしてやはり、ロシアは日本の力を求めています。

ロシアにとって極東開発は生命線なのです。プーチン大統領は柔道をこよなく愛しています。本当の話です。私は東海大学にいますので、よく分かります。本学の山下泰裕副学長を尊敬しているぐらいの人です。ただし、プーチン大統領が親日家だからといって、北方領土問題に譲歩するような甘い人でないのはお分かりだと思います。KGB（ソ連国家保安委員会）の出身です。どのようなことをしてきたかは想像できることだと思います。

ただし、プーチン大統領は知日家です。日本人のメンタリティをよく分かっています。われわれ日本人は、北方領土問題が解決に向けて進展しない限り、真にロシアを許したりしません。北方領土問題が進まない限り、日本人の心の中にロシアはうさんくさい国、もっと言えば敵国ともいえるぐらいです。それをプーチン大統領はよく分かっています。

### 経済協力プランの行く末

その中で、安倍首相とプーチン大統領の対話が進んでいきました。そして、日本側から8項目の経済協力プランというものが提案されました。「健康寿命の伸長」「快適・清潔で住みやすく、活動しやすい都市作り」「中小企業交流・協力の抜本的拡大」「エネルギー」「ロシアの産業多様化・生産性向上」「極東の産業振興・輸出基地化」「先端技術協力」「人的交流の抜本的拡大」です。提案するということは、できていないということです。

ロシア人の寿命は短い。寒い地域だからというのがあります。ロシア人だって長生きしたいのです。次に生活環境ですが、要は、快適・清潔ではないのです。北方四島交流事業で、何度か北方領土に行かれたことがある方もいるかと思います。あるいは北方領土からご家族や子どもたちを受け入れる家庭もあると思います。私は北方領土に6回行ってきて、北方領土にお住まいのロシア人の方々と通訳を介して話します。日本に来て何が良かったかと聞くと、「根室で健康診断をしてもらった」「がん検診までしてくれる」と言います。ロシア人も自分や家族の健康は心配です。それが日本にあるのです。日本は長寿で、清潔です。ビザなし渡航で日本の家庭にロシアの子どもたちが来ると、「日本はきれいな町だ」

「水道水が飲める」「商業も活性化してみんなが働く場を持っている」と言って驚きます。

エネルギーはロシアにとってももちろん生命線ですが、これを買ってくれるのは日本です。ロシアはまだ産業が多様化していません。その中で、日本の力が欲しいのです。極東を開発しても世界に売っていかねばなりません。そのためには港や飛行場を造らなければなりません。南下政策の時代と同じように日本頼みなのです。

ロシアは南下政策の後、日本と仲良くなると、ちょっと凶に乗って日露戦争を仕掛けました。しかし、やはり地の利で、日本海海戦で日本が勝ちました。現代でも、最先端技術は日本が持っているのです。

そして、経済協力していくためには人が交流していかなければなりません。既に話が来れています。東海大学にも具体的に話が来ています。私は本学の学長から、「政府はすぐでも結論を出したいが、国立大学は動くのが遅い。4月に極東大学に行くからついて来い」と言われました。すぐにでも動かなければなりません。時間軸はIT化の推進で非常に短くなっています。

よく、「100年たっても主権は譲歩してはいけない」とおっしゃる方がいます。それはそうです。主権は譲歩してはいけません。しかし、100年待てるかという話があります。政府の行った調査では、日本国民の60%は「北方領土返還運動に関わらない」と言っています。私は、4年前に同じような調査を地元の根室市で行いました。51%は「北方領土返還運動に興味がない」と言うのです。地元ですよ。だから、今動かなければならないのです。

今日の中学生の発表は、素晴らしいと思います。具体的に問題意識を持っています。そして、改善していこうとしています。「駄目だ、駄目だ」では進まないのです。少しでも先に進む方法を考えています。最初の中学生が言ったことにもっと言葉を足していくと、北方領土に生まれ育ち、北方領土を開発し、さらに富山に移り住んで、苦勞して苦勞してこの富山の発展をつくる。みんな都市に行きたいのに、皆さん富山で生きています。

もしこの場に中学生がいたら、富山で生きていくことについてぜひ考えてみてください。ひいおじいちゃん、おじいちゃんが苦勞したように、この富山で頑張って、富山を開発してってください。IT化、グローバル化が進んだ社会の中で、富山にいても楽しいことはたくさんあります。富山にいても、最前線の勉強はできます。

### 共同経済活動の方向性

さらに、具体的に北方領土での共同経済活動として何をするかということ、漁業、海面養殖、実は一体なのですが環境保護、医療その他です。経済的意義のあるプロジェクトを形成し、法的許可の諸問題は、それから研究していくのです。要はどのような社会を作り得るのかという青写真なくして法的基盤の諸問題はあり得ません。

実は、この経済的意義のあるプロジェクトの形成は、「経済特区」という政策になります。プーチン大統領も安倍首相も「特別な枠組み」と言っています。これは経済特区という意味です。この段階で、実は主権の譲渡はあるのです。経済特区は税制面で優遇されます。要は、徴税権という主権の一つをロシアはまず譲歩します。ということは、穴が一つ開くのです。

そして、元島民の訪問は、今より拡大され、自由な方向になっていきます。ということは、彼らの持っている入国を管理する主権にも穴が開くのです。こうして穴を一つ一つ開

けていきます。一度小さい穴が開いたら、そこから広げていくことは可能です。動き出ししているのです。

私も具体的に提案を作っています。歯舞群島のどこに港を造れるのか、掘削して港を造る必要があるのか、あるいはポンツーン（浮き栈橋）を持って行って設置できるか。そして、どこに日本人の眠るお墓があるのか、お墓までの経路は大丈夫か、地図を元に調査して、1年以内に具体的に島々をどのように墓参できるのかという案を作っていきます。

そして、やはり漁業です。納沙布岬の目の前の貝殻島から解決していこうとしています。貝殻島は、実は島ではなく、低潮高地といって満潮になったら沈んでしまう土地です。目の前の貝殻島で昆布を採るためにお金を払うのか、あるいは命を懸けなければならないのかという問題をここから解決していきます。

そして、環境です。北方領土には自然がたくさんあります。私が6回行くうち、毎回イルカもクジラも見えています。ラッコもシャチもいます。鳥ではエトピリカ、オオワシ、オジロワシなどもいて、自然にあふれています。国後島には白いヒグマがいて、300頭ほど生息していることが確認されているようです。しかも、ロシアは国後の北半分を自然保護区にして、人の立ち入りを禁止しています。それなら、いつそのこと知床から世界自然遺産にしてしまいましょう。そうして自然を守りながら旅行者が行けるような環境を作っていきます。

そして、医療です。ロシアに住んでいる人たちの命を、日本の病院が預かってしまうのです。手術のために極東のサハリンまで行っても、サハリンにも大きな病院はありません。かといって、ウラジオストクやモスクワまで行く必要はありません。日本に来れば、飛行機で札幌まですぐです。根室、釧路、中標津にも病院があります。札幌まで行けば、充実した医療が受けられます。

われわれの具体的なプランは、まず北方領土に住む人たちの心を動かします。それは、皆さんと一緒に考えてください。そして、われわれは北方領土を取り返したいという思いを、常に政府に訴えかけることが重要だと思います。

「逆さ地図」というのは、富山県の団体が発行している地図があります。大体の県民の方はご覧になられていると思います。「環日本海・東アジア諸国図」です。この地図が結果を表していると思っています。日本という国がどれほど強い国なのか、これを示す学問を地政学といいます。つまり、日本の土地が持っている力です。極東ロシアから世界を目指そうと思うと、必ず対馬海峡・津軽海峡・宗谷海峡のどれかを通らなければなりません。それらは、ほぼ日本の手中にあります。

私は尖閣諸島の問題を中心に研究しています。中国は、今、日本と戦争ができません。なぜなら、中国が尖閣諸島に軍事的侵略をした場合、日本と中国が紛争になったら、日本は海峡を封鎖することができます。北京や上海から世界を目指そうと思ったら、東シナ海を横切り、日本列島を横切って行くしかないのです。そうしたら、日本の潜水艦でこの海域を封鎖してしまえば、中国は世界に出られません。これがマリッジレンマです。中国は日本を押しえ込みたいのに、日本と紛争までしたら中国経済が破綻します。極東も同じことです。日本と仲良くしていくしかないのです。

津軽海峡は48kmありますが、中央部を公海として開けています。しかし、有事になったら閉ざすことができます。対馬海峡も中央部を公海として開けていますが、ロシアは十

分分かっています。日露戦争のとき、ここを思うように通れずに叩きのめされたわけです。そして、宗谷海峡の半分は日本側の海域です。ここに入るためには、北方領土海域を通らなければなりません。

日本は、地の利を持っているのです。神がわれわれ日本国民に与えてくれたこの土地が、日本の力なのです。ロシアとの交渉でもそのことを忘れないで、われわれにカードがあることを考えて進めていくのです。ただし、ロシアにとっても譲れない場所、譲れないことがたくさんあります。

## 海底資源の開発

話を別に展開していきますと、日本の周囲にある領海という沿岸から 12 海里(約 22.2km)の海域は、原則として日本が主権を持っています。主権とは、例えばこの海域で外国人が犯罪を犯した場合、日本の警察や海上保安庁が捜査・逮捕し、日本の裁判所かけられます。日本の行政権が適用され、原則として日本の法律が適用されます。

その外側の海域を排他的経済水域といいます。他国を排して、経済的な權益が認められる海域です。具体的には海底資源の開発、海水の調査・利用、漁業管轄権です。富山の皆さんはご存じでしょう。富山湾は海底資源の宝庫です。水深 500m にメタンハイドレートがあり、具体的に調査に入っています。

実は太平洋岸の南海トラフ海域(静岡から和歌山の沖合)では、水深 1100m より深いところからメタンハイドレートを実験的に採ることに成功しています。なぜ、それ以上進めないかという、簡単に言えば採算が取れないからです。ガスは買った方が安いのです。これは富山で調査してみても同じです。

しかし、今の中東情勢、東南アジア・東シナ海・南シナ海の情勢を考えると、技術開発を進め、いつでも費用さえ掛ければエネルギーが手に入る状態を作るために、日本政府はメタンハイドレートの開発に資金を投入しています。年間約 120 億円です。

今までは太平洋岸を中心に行ってきましたが、そろそろ日本海側に移ってきます。日本海側でなかなか進められないのは、一つは冬季に荒れてしまうからです。簡単に言えば、太平洋岸のしっかりしたプラットフォームで実験を成功させ、日本海がガラスの水面といわれるほど穏やかな海面になる夏場の短期間に設置することです。条件が整ったところで一気に、富山湾のメタンハイドレートの開発が進んでいくことになります。その前に十分実験しなければなりません。

もう一つ、魚に対する影響が心配されます。太平洋の場合、ほとんど漁師が行かない海域で行っていますが、富山湾になりますと寒ブリ・ホタルイカなどに影響があるかどうか、しっかり調査していかなければならないことになります。しかも富山湾の場合、その調整を、佐渡島がある新潟、能登半島がある石川と、そもそもの富山の 3 県にまたがって行わなければならない、政府の方が若干疲れてしまっているのは確かです。

先ほど採算が取れないからエネルギー開発は難しいと言いましたが、政府は実験的に 120 億円ほどの予算を掛けてやっています。これを全部、少なくとも半分くらいは富山で取ってしまえばいいのです。

古い原子力発電所は、廃炉にしていく段取りになります。そのときに代替エネルギーをどうするかというと、メタンハイドレートを使うのです。それなら、実用化の費用を国費

から出すことができます。私は、富山はこれからのエネルギー開発にとって非常に魅力的な地域だと考えています。

ちなみに私は、北は択捉島、南は沖ノ鳥島、東は南鳥島、西は与那国島と日本の四隅に行ったことのある2人の日本人のうちの1人です。中でも、沖ノ鳥島は時々話題になります。これは島ですから、岩などと言わないでください。国連海洋法条約では、大潮の日の満潮時（高潮時）に少しでも陸地が出ていたら島です。最南端の沖ノ鳥島は、大潮の日の満潮でもおよそ16cm残るといわれています。この16cmが持っている排他的経済水域が40万km<sup>2</sup>と超える広さなのです。この海域には、ニッケルなどの海底資源や漁業資源があります。何より沖縄本島とグアムの間であって、安全保障上も非常に重要な島です。この島を管理する必要があるため、資金が投入されて守られています。

この島を守るために、護岸工事がされています。周りをコンクリートで固めて、上にはチタン製のネットが張られています。このチタンのネットだけで7億円です。ゴルフクラブが何本できるか数え切れないぐらいです。そうしてこの島を守っています。この工事だけで300億円掛かっています。さらに、この岩のような島からエントランスを伸ばし、沖に港を造って、そこを拠点とした太平洋の海底資源調査を行う計画になっています。

### 北方領土をめぐる戦略

実はロシアは、北方領土に資金を投入していると言っています。どれぐらい投入するかと言いますと、1000億円を投入する計画だと言います。さらに800億円を投入する計画など、いろいろな説が出ています。実際、今はどれぐらい掛けているかという、日本円にして約600億円程度です。

私は1月に小池百合子都知事と話しました。「希望の塾」という小池さんが主催している塾の講師を務めたのですが、そのときに小池さんに言いました。「東京都は気前がいいですよ。豊洲のために800億円です。実はロシアが北方四島に掛けているお金は、そこまで行っていないんですよ」。日本には余裕がありますが、ロシアには余裕がないのです。

600億円程度では、択捉と国後に飛行場を造って、択捉・国後・色丹に港を造って、病院や学校や道路を造ってというふうにはできるわけではないのです。見せかけだけの開発なのです。誰に見せるためかという、日本です。われわれに見せるための開発を行っています。

ロシアにも譲れない点があります。それは国後水道といわれる択捉と国後の海峡です。この海峡は、水深480mを超える深さなのです。極東地域の港にロシアの潜水艦を入れるときに、通年航行できるのはここしかありません。流氷が来ても、深いので流氷の下を通れるからです。

実は、ロシアはここをそう簡単に譲れません。仮に四島全てが一括して日本に返還された場合、国後水道は日本の領海に入ります。すると、国際法上、「潜水艦は他国の領海を通過するとき、浮上して国旗を掲揚しなければならない」というルールがあるので、ロシアはここを浮上して国旗を掲揚しなければなりません。流氷が来ていたら通れないことになります。安全保障上、そのような面も考えて、現在細かな交渉が進んでいるとお考えください。

## 北極海航路をめぐる戦略

もう一つ、北極海航路というものがあります。ヨーロッパとアジアを結ぶ新しい海の道です。今、ヨーロッパとアジアを結ぶ道にはどのようなものがあるかという、例えば横浜から出て東シナ海、台湾海峡、南シナ海、航行の難所マラッカ海峡を越えてインド洋に出て、海賊がたくさんいたソマリア沖へ出て、特にまたイスラエルが危なくなってきたスエズ運河を通過して、地中海に入らなければなりません。もう一つは、太平洋を越えてパナマ運河を回るルートです。

横浜とハンブルグを結ぶ場合、現在航路の中心になっているスエズ運河を通ると距離は1万1000海里、パナマ運河を通ると1万2400海里、さらにアフリカ大陸の喜望峯を回ると1万4500海里です。それに比べて北極海航路は6900海里で3分の2です。

しかも、まず南シナ海で、中国・ベトナム・フィリピンの紛争があるかもしれません。その先にはイスラムの紛争が起こっている。さらに、イスラエルも紛争の種になり、スエズ運河は現在危なくなってきました。そのような中で、リスクを負っていかなければなりません。パナマ運河は拡張されましたが、航路幅にもまだ制限があります。となりますと、北極海航路が俄然有利になってきます。

実は、地球温暖化の影響で、北極海航路は7月から11月まで通ることができます。来年の2018年、商船三井は中国と合弁会社をつくって、北極海航路を通過してヨーロッパ・ロシアから液化天然ガスを運びます。商用航路を運用するのです。となると、北極海航路を使える間は極力使いたいのです。燃料も3分の2、要するに掛かるお金が3分の2なのです。

そのとき、非常に国際社会が変わっていきます。ロシアは当然、アジア中の荷物をウラジオストクに集めたいのです。それが先ほどの8項目の経済協力プランにも入っていた、極東に貿易拠点を築くことにつながります。北極海航路を使ってウラジオストクに荷物を集める上で、日本海が俄然注目されるのです。現在も、釜山から出て、青島から出て、最短距離は日本海を横切って津軽海峡を越えるルートです。

ロシアは、極東開発のために拠点を築きます。すると、ヨーロッパからの荷物は東京を目指さずにウラジオストクに行きます。実は東京や横浜など東京湾の港に入るためには、大型船は浦賀水道を越えるときに許可を受けて、浦賀水道を越えて東京湾に入ると速度を落として航行しなければなりません。荷物を下ろしたり、積んで出ていたりするときも同じです。そのためにほぼ1日かかってしまいます。

それなら最短距離でウラジオストクに入り、ウラジオストクで積み替えた荷物を日本海に運んだ方がいいです。日本海を横切ってくるのです。日本海側の中堅港の役割が求められます。速度が必要です。今は大量輸送の横浜や名古屋、阪神では、大量輸送のために大きな港を造っていますが、短い夏の間スピーディに往復しなければなりません。となると、スピードを上げて必要な量を届けていきますから、むしろ中堅港の方が使いやすいのです。日本海側が変わり始めます。

逆に、関東や関西で作ったものが富山・新潟・金沢に運ばれて、そこからウラジオストク経由で世界に運ばれることも想定されます。しかも金沢の場合は外洋港で、完全に外に面しています。ですから富山湾は非常に魅力的で、安定して夏場のちょうど北極海航路が使える時期に、穏やかで使いやすい港だといえます。

将来的に北方領土問題も含んだ形でロシアとつながっていきます。日本とロシアがつな

がり、北極海航路を使い、ロシアが発展していくためにも、北方領土問題を早く進めて、日本人に許しを請わなければならないのです。日本人に受け入れてもらわなければならないのです。

## 北方四島の現状

私が北方四島に6回行ってきた中で、ピックアップした写真をご覧いただきたいと思います。

これは色丹島の国境警備庁の基地です。5年前にこの写真を撮っていたことがばれたらさすがに怒られまして、去年行ったときは「絶対に撮らないでくれ」と言われました。去年は、私ではなく、違う人が撮ったものをもらいました。

ここには4隻の警備船がいます。去年は4隻に加えて警備艇が2隻いました。実は、色丹島には2800~2900人の人口がいて、そのうちの1000人は国境警備庁です。色丹島の国境警備庁は北東の斜古丹の町にあり、何をしているかという、国後水道の管理をしています。先ほど言った潜水艦の航路を確保しているのです。そのために1000人配備しています。逆に言うと、2900人のうち1000人が国境警備庁ですから、恐らくそれほど簡単にこの基地を譲りません。後ろにある兵舎・官舎のようなものがどんどん拡張されています。

色丹の開発がいびつになっています。道路はがたがたなのに、体育館を先に造るといっています。国境警備庁に急速に人が増えた場合や冬季の訓練に使えるからです。資材置き場としても使えます。そのような理由で、色丹島では体育館を造ります。

2年ほど前に、色丹の穴潤という所に病院が造られました。昨年行ったときに、「運用されていますか」と聞いたら、ちょうどそのとき日本人の医師グループと一緒にいたのですが、「ちゃんと使えていたら、日本人に来てもらわないですよ」と本音を言っていました。先ほど言ったように、命を預かってしまうのはいいですね。医療を日本が握ってしまうのは非常に有効な方法だと思います。

北方領土の島民の健康を日本が預かってしまうのです。すみません、余談です。

色丹は国境警備庁の町であるという前提で考えていきます。逆に言うと、海の守りは日本の海上保安庁の方がはるかにうまいのです。「それでは、国後水道の警備はあなたたちがやりなさい。日本側は密漁対策をしましょう」と日本側に言われて、ロシアも悩んでいるのです。

私は稚内、紋別、網走、根室とずっと海沿いを回り、カニの密漁・密輸の調査をしました。ロシアからどのように入ってくるかを調べるために、紋別の港に行きました。すると、カンボジアの国旗をたなびかせている白い船が泊まっているのです。でも、働いているのはロシア人です。便宜置籍船といいます。カンボジアの法律を使ってカニを持ってくるのです。8月でした。

オホーツク海のズワイガニ漁は夏場に行われます。そして紋別に入り、輸送車に載せられます。「これはどこに行くのですか」と聞いたら、笑っているだけで教えてくれませんでした。後で仲買さんをつかまえて「どうするのか」と聞いたら、「夜通し走って金沢に行く」と言っていました。

日本側は、警備という協力ができます。そして、航行安全の協力もできます。これは国後水道を古釜布で撮った写真です。

ころころした石ころの上にアスファルトを載せています。道路工事をしている様子です。要するに、基礎工事など何もせずにアスファルトを載せているのです。

この写真を撮った3年後、同じ場所に行きました。やはり道路がゆがんでいました。含まれた水は冬に凍り、春に溶けるのです。道路は3年も持ちません。見せかけの開発なのです。

これは、メンデレーエフ国際空港です。立派な飛行場ができたと言っていますが、午後には飛行機が来るというのに管制塔には誰一人も現れませんでした。

これは、幼稚園・保育園ができてから3年目に撮った写真です。3年目でさびが浮いて、土台はぼろぼろです。見せかけなのです。

国後では新しい建物をどんどん建てているとよく言われます。確かに、北方領土に行った方はきれいな新しい建物をたくさん見たと思います。しかし、あれは見せかけです。2015年、国後島で造られた新築延べ床面積は7600m<sup>2</sup>です。新しい建物を2300坪しか造っていません。国後は大きな島であり、佐渡より大きいのです。そこで2300坪なのです。

観光に力を入れると言っていました。しかし、2015年に国後を訪れた観光客は1200人です。そのうち約500人はビザなし渡航です。現実には、報道されていることが少し違うのです。だから、日本人がしっかりと心を合わせていけば手が届くかもしれません。届く距離にあるのです。

国後の教会に行きました。古釜布の中心にきれいな教会ができました。「大統領の教会」といわれています。メドヴェージェフが大統領だったときに島を訪れ、昔は木造製の渋い教会があったのですが、象徴的なものとして、きれいできらびやかな教会に建て直しました。私はここの神父をつかまえて「信者は何人ですか」と質問しました。国後島は人口約7000人です。神父さんは、40人と答えました。読売新聞の記者には70人と答えました。せいぜい40~50人というところだと思います。7000人いて、教会に行く人が40人です。キリスト教社会で教会はコミュニティの中心ですので、7000人の村でコミュニティ活動に参加しているひとが、40人しかいないことになります。

簡単な話です。島に残るのは、その40人なのです。でも、その方々は頻りに日本を往来している方が多いです。ビザなし渡航で入っている方が多いのです。

現在、北方領土ではロシア本土の2倍近い給料で働くことができます。年金も15年働くと30年働いた計算になります。従って、40代の人口が減るのです。20代後半から30代で来て、頑張って15年働いて、2倍の給料をためて年金の資格をもらったら、島から出ていくのです。従って、教会に行く人も少ないです。神父は「この島の人たちは、島に責任を持っていない」と言っていました。故郷だなどと思っていないのです。思っている人は40人しかいないのです。

## 北方領土返還に向けて

となると、われわれが一体となってどんどん経済開発を行って、北方領土を日本化してしまえばいいのです。すると、あっという間に日本のものになっていきます。

例えば択捉ではギドロストロイという会社が企業帝国をつくっています。去年、水産担当の准教授に行ってもらい、工場をプロの目に見せました。やはり1次加工しかできていませんし、衛生管理がなっていないのです。だから、日本の技術が欲しいのです。日本の

缶詰会社が入っていけば、あっという間に日本化できます。しかも、ギドロストロイも中途半端な物をロシアに売っているよりも、根室に持ち出した方がはるかに高く売れます。原材料は一緒ですから、オホーツク海やロシア沖で捕っているサケ・マスを加工すれば人件費は5分の1です。日本の技術で同じ物を作れば、5分の1の人件費でできてしまいますから、お互いにメリットがあることなのです。

そのような面で考えていくと、ウィンウィンの関係はあり得ます。日本化していき、日本に頼らなければ生きていけない社会をつくることが私は重要だと思います。

昨年12月15日、落胆された方が多いかもしれません。しかし、ここにいる皆さんは、できるだけ早く北方領土に行ける社会を数年以内につくらなければいけません。動き出しているのです。駄目だと落胆するよりも、安倍さんの背中を無理やり押しましょう。常に、やっていますか。宮腰議員、田畑議員の背中を押しましょう。毎日考えてください。

確実に少しずつでも進みます。針の穴を開けることから始め、いずれ島々は日本のものとなり、皆さんの手に帰ってきます。そのような時代を信じて、ぜひこれからも一緒に北方領土返還運動を進めていきたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。